



地方独立行政法人 鳥取県産業技術センター 設立100周年記念式典開催

鳥取県産業技術センターは、1923年(大正12年)4月に設立され、今年で100周年を迎えました。

記念式典は、令和5年5月24日(水)とりぎん文化会館小ホールにて開催し、日頃よりセンターを支えていただいている県内の中小企業及び産学官等の関係者の皆様に多数ご参拝いただきました。



記念式典

式典には、鳥取県内企業、経済団体、県議会議員、県内行政機関、大学・研究機関、歴代役職員の皆様にご参拝いただきました。設立団体の鳥取県平井知事、浜崎県議会議員長、気高電機羽馬社長、青木経済産業局長からは、お祝いのお言葉、センターに期待するお言葉をいただきました。

平井知事は、センターを評価し育てて頂いた関係者の皆様への感謝を述べられ「高付加価値の産業を創造するため挑戦される企業様に、今後もセンターをご利用いただきたい。」と挨拶されました。

当センター高橋理事長も全ての関係者の皆様への感謝を述べるとともに、これからも鳥取県産業の発展に貢献できるように企業様とともに歩む決意を新たに、引き続きご指導、ご支援、ご活用賜りたい、と挨拶しました。



高橋理事長



鳥取県 平井知事

記念講演

記念講演は、早稲田大学大学院経営管理研究科 教授 長内厚先生にお願いし「不確実な世界情勢に強い中小企業アライアンス～台湾の事例に学ぶ～」をテーマにお話しいただきました。

台湾の企業形態の強みについてや「良いものさえ作れば」という幻想を打ち破る必要性や、不確実な状況の中での創発戦略について講演され、聴講していた経営者から「初めて触れる知見が多く、経営戦略の道しるべとなった」等の感想が寄せられました。ものづくりが得意な日本が「ビジネスを作っていく」ということの重要性など、会社組織の在り方や経営についてなど様々な問題提起をしていただきました。



早稲田大学大学院経営管理研究科
おさない あつし
教授 長内 厚 氏

パネル展示

会場内には、歴史を感じられる1923年(大正12年)からの業務実績報告書なども展示しました。また、パネル展示では、センターの歴史や現在に至るまでの変遷、各研究所の研究成果などの紹介とともに、現在、日々企業様と共に研究に励む研究員の紹介パネルも展示し、来場の皆さまに御覧いただきました。



初期の業務実績報告書



パネル展示コーナー

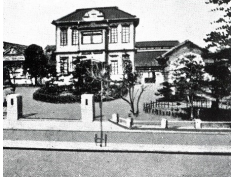


～鳥取県産業技術センター 100年の歩み～

式典では、スライド「100年の歩み」でご参列の皆様とともにこれまでのセンター100年の歴史を振り返りました。
ここでは、記念誌「100年の歩み」から一部ご紹介いたします。

History 1 1923-1965

設立から大戦・戦後復興へ、地場産業とともに



1923(大正12)年
工業試験場設立



1948(昭和23)年
農産加工所設立
(食品開発研究所の前身)

第1次世界大戦終戦後間もない1923(大正12)年、農商務大臣から設立認可を受け、醸造部門、製紙部門からなる試験研究及び技術指導機関として工業試験場が設立されました。翌年、鳥取市西町に本庁舎完成。その後、窯業部、染織部、木工部が相次いで新設されるも、太平洋戦争が始まり、次第に戦況が悪化。規模縮小を余儀なくされましたが、1945(昭和20)年終戦。戦後の地方産業の振興のため業務を順次再開し、1949(昭和24)年には工芸圖案部を新設しました。

一方で、戦後の食糧難を乗り切るため1948(昭和23)年、米子市旗ヶ崎に鳥取県立農産加工所を設立。食糧増産や加工に関する研究が盛んに行われました。

History 2 1966-1989

高度経済成長から安定成長へ、相次ぐ工場立地と支援拠点整備



1970(昭和45)年
工業試験場米子分場
(機械金属科)開設



1978(昭和53)年
工業試験場本場
新築移転



1978(昭和53)年
食品加工研究所
新築移転

1966(昭和41)年、境港市渡町に移転していた農産加工所が、食品加工研究所へと改称し、水産食品部門を新設し、水産加工品へも対応開始しました。

1970(昭和45)年に米子市が新産業都市に指定されたのを受け、機械・金属工業の育成発展を図るため、工業試験場に米子分場(機械金属科)を開設しました。

1972(昭和47)年、総合的食品研究所としての機能強化のため、食品加工研究所に畜産加工部門、翌年には菓子食品部門を新設しました。

1978(昭和53)年、工業試験場本場、食品加工研究所が、それぞれ鳥取市秋里、境港市中野町へ新築移転。しました

1987(昭和62)年には工業試験場本場に应用電子科を新設。県内の主要産業となった電気・電子業界への製品化支援・人材育成に務めました。

History 3 1989-2007

平成不況、技術革新と産業技術センターへの統合整備



2000(平成12)年
本庁舎新築移転
(鳥取市若葉台)



2004(平成16)年
機械素材研究所
(米子市日下)



2007(平成19)年
高機能開発支援棟新設
(食品開発研究所)

平成に入りバブル崩壊後の国内経済低迷の中、新素材や応用製品の開発の為、企業が最先端の装置を利用できるように1991(平成3)年、工業試験場米子分場に先端技術開放試験室を設置。また、翌年からは、県内企業の技術者・研究者の人材養成事業を開始しました。

一方で、今後の産業界の技術革新や県内企業の技術ニーズの変化への対応を目指し、1998(平成10)年、工業試験場と食品開発研究所を組織統合して「鳥取県産業技術センター」へと改称。東部には企画調整室や技術開発部、西部には応用技術部を設置しました。

2000(平成12)年、本庁舎(企画調整室、技術開発部)を現在地の鳥取市若葉台へ新築移転。新たな機器・実験室の充実を図りました。

2003(平成15)年には、応用技術部を機械素材研究所と食品開発研究所へ改組。翌年には、機械素材研究所を現在地の米子市日下に移転し、産業創出拠点として活動を開始しました。

2007(平成19)年には、食品開発研究所に高機能開発支援棟を新設し、新技術開発等の支援を図りました。

History 4 2007-2023

地方独立行政法人化、産業再生と成長、新たな時代へ



2015(平成27)年
商品開発支援棟増設
(食品開発研究所)



2019(令和元)年
とっとりロボットハブ
(機械素材研究所)

2007(平成19)年、地方独立行政法人へと移行。東部の技術開発部を電子・有機素材研究所に改組し、3研究所体制としました。

2015(平成27)年、食品開発研究所に商品開発支援棟増設。地元産品を用いた特徴的な食品開発へとつながりました。

2019(令和元)年には機械素材研究所に「とっとりロボットハブ」を整備。企業単独では困難なスマート工場化事前検証が可能となりました。

2023(令和5)年設立100周年を迎えました。時代の動きを踏まえSDGs・カーボンニュートラルに向けた取組を加速し、こらからも、企業の皆さまと共に歩んでいきます。



100周年記念サイト <https://tiit.or.jp/100th/>
記念誌『100年の歩み』は、上記URLからご覧いただけます。